

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前：有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2023年5月17日実施】

2022年度自己点検自己評価(2022年4月1日～2023年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
育 成 人 材 像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	学校運営にあたり、最も大切にしていることは「滋慶学園グループのミッションと理念」である。これを基に、各校ごと事業計画を作成し、組織目的、運営方針、実行計画を示している。 育成人材像については、各学科ごとに「養成目的」「教育目標」を定めている。カリキュラムについては年2回の教育課程編成委員会を開催し、業界の意見やニーズも踏まえて作成している。 「職業人教育を通じて社会に貢献する」というミッションの元、本校では産学共同研究で新しい商品づくりに取り組み、これまでも多くの商品化に成功している。教育を通じて社会貢献に取り組むことで学生にもよい影響を与えている。 2022年度、学内にイノベーションプロジェクトを発足し、新しいバイオ分野の人材育成や新学科、新専攻など未来構想を形にしてきた。今後も社会の変化を見据えて新しい学びを創造していきたい。	■建学の理念 実学教育 人間教育 国際教育 ■滋慶学園グループのミッション 職業人教育を通じて社会に貢献する ■教育課程編成委員会 2022年5月25日 11月16日 実施 ■産学協同研究(2022年度) エイジェックグループの農林水産事業I【株式会社エイジェックファーム】との産協同研究で開発したいちごと枝豆のジェラートが商品化されました。 	3	●職業人教育を通して社会に貢献、といつミッションを実現すべく、学生に対して様々な機会を与え、実践していることがよく理解できる。 ●今後も、4年生大学との位置づけの違いを明確にし、大学と同等なレベルの教育、しかも実学教育が与えられていることを、更に世の中に知ってもらうことが重要である。 ●近年、SDGsが各企業にとってのハイレベルの課題となっており、クリーン・エネルギーや気候変動対策等に取り組みだした。従って、従来の教科だけで無く、これらに関しての教育も大切になってきたと考える ●1-1-4があることで、1-1-1が決まると思いますので、常にニーズ、将来構想を大切をお願いします。 ●専門科目に対して目的をもって学習しています。産学についても学生に考え方等を含めていい影響を与えていると思います。 ●学生は実学を通して科学的思考を育み、社会貢献できる人材に育っている。今後も継続してその精神を大切にしてほしい。 ●滋慶学園の建学の理念である、実学教育・人間教育・国際教育を教育活動の柱として教育事業がなされています。特に大学教育ではできない、東京バイオにしかできない教育を創造する気概だけでも高い評価をすべきだと思います。 人材育成も各学科ごとに養成目的・教育目標を定め、業界が求める動きをカリキュラムを編成し教育課程編成委員会に答申しながら教育が行われています。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか					
2 学 校 運 営	2-2 運営方針は定められているか	3	毎年見直しをするが、5か年の中長期を見据えて定められている。	■2022年度運営方針 ・「産学連携 × 単位履修型選択科目 × ICT教育システム」を確率する。 ・イノベーションを実現するプロジェクトの組織化を図る。	3.0	●事業計画が毎年しっかりと設定され、それを着実に実行に移してきたことは特筆に値すると判断する。しかも、それらは、中長期計画を元に設定されており、しっかりとした運営方針の下に作成されている。 ●当校の事業計画を設定する際、他のグループ校との情報交換がどのくらい行われているかが不明だが、滋慶学園グループの方向性を合わせていくためには、ぜひ必要なことと思われる。これが今後の課題であると推察する。 ●意思決定プロセスは明快になっている。即ち、運営協議会や戦略会議でしっかりと検討された後、最終的な決定事項は職員全員にシェアされている。これにより、職員全体のベクトルが一つの方向に向っており、揺るぎないものになっている。 ●更に、情報システムに関しては、独自のシステムで様々な業務をカバーしており、順調に導入されてきた。今後、チャットGPT等、AIを活用した業務処理システムを開発し、学生達がより幅広い研究をできるようにすることが重要である。 ●事業計画に対して各部署で遂行されていると思います。 ●教員および職員のカウンセリング(心身健康管理)を定期的に実施し、モチベーション維持されているのでしょうか？ ●勤務に係る重要なことの多くのメンバーによる機関により決定されている。公平性、透明性を確保する上で今後も継続してほしい。 ●学校運営は法人としての滋慶学園グループが傘下80数校・学生総数38000人を擁する運営のため盤石な体制です。さらに5カ年計画の中長期の運営方針のもとで、組織目的・運営方針・実行方針・定量目標等を作成した事業計画で学校運営がなされています これは法人理事会・評議員会などの最高意思決定機関から始まり、法人運営・学校運営・学科部署会議・グループ会議などの組織的な運営で、意思の決定や人事評価も明確に整備されていることは高い評価です。
	2-3 事業計画は定められているか	3	各校の事業計画は、滋慶学園グループの方向性に基づき、まず各校で作成し、常務理事の決済を受けて実行に移している。事業計画の項目については右記の通りである。 ■事業計画の構成 ①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的) ②運営方針(中期的に組織として目指していく方針) ③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針) ④定量目標 入学生獲得、教育成果(中途退学防止・資格取得数・就職率)等 ⑤定性目標(組織のあり方等定性的な目標) ⑥実行計画(その方針を実現するための詳細な計画) ⑦組織図(単年度) ⑧職務分掌 ⑨部署ごとの計画及びスケジュール ⑩職員の業績評価システム ⑪意思決定システム ⑫収支予算書(5カ年計画) など			
	2-4-1 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3	組織図、意思決定のルール、会議(日程と目的)を定めており、運営体制は整っている。	※組織図、意思決定のルール、会議については別紙参照		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	2-5 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	採用計画、人材育成計画は事業計画で定められている。 昇任・昇給(昇進昇格)に関しては、目標管理制度に基づきEAST戦略会議にて決定している。	■給料 ・基本給(基礎給＋職階給) ・手当(管理監督者給、役職給、夜間手当、OJTトレーナー手当、調整手当、家族手当、別居手当) ■目標管理制度 学校目標2項目とチーム目標3項目及び情意効果の達成度合いによる		
	2-6 意思決定システムは確立されているか	3	拡大運営協議会、滋慶EAST戦略会議、エリア会議を経て、学校の運営会議で意思決定を行い、全体会で職員全体に周知している。	※2-4-1、2-4-2と同様		

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前：有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2023年5月17日実施】

2022年度自己点検自己評価(2022年4月1日～2023年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
	2-7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	滋慶学園のサポート企業にBSCというPC企業があり、独自の管理システムを構築している。 特に学生情報については「入学前～在籍中～卒後」で一貫した情報管理を行っている。学生の様々な支援(進路決定、就職支援、学費相談等)の際に、その情報を活かし、適切な助言ができる。	■各種情報管理システム ①学籍簿管理 ②成績・出席管理 ③学費管理 ④入学希望者及び入学者管理 ⑤各種証明書管理 ⑥求人企業管理 ⑦就職管理 ⑧卒業生管理 ⑨学校会計システム ⑩勤怠システム ⑪現金精算システム 等	2の続き 評価は 前ページ に記載 してください。	
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられている。 各学科の教育目標、育成人材像は、常に業界のニーズを反映させるため、業界調査、学科調査、競合校調査をイノベーション会議にて行い、そこで現れる業界ニーズに確実に応えられる教育目標、育成人材像を設定している。	人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目的の見直しやカリキュラムの再構築のために、教務部長及びキャリアセンター長を置いている。 教務部長はキャリアセンター長と協力して、業界ニーズに確実に応えられるよう、教育力(1. 計画:カリキュラム 2. 運営:授業 3. 評価:試験フィードバック)向上のための教育改革項目について分析し、改革案を作り、改革実施を評価し、修正提言をする役割を担う。	3.0	●各科目の設定が、学校の教育目標をベースとしており、社会から求められる人材像を基に行われている。 ●学生に対して、各科目に関してアンケートを実施していることは、大変評価できる。また、その内容も回答しやすい、平易なもので有り、その結果は実践に役立つものであると感じた。 ●現在、各企業が争って、AI活用を含めたDX推進を進めており、それが将来の各業界での勝ち負けを左右することとなっている。学生に皆さんも、自分の専門性を磨くことはもちろん、このようなAI/情報関係にも飛び込んでいけるような素養を身につけることは、皆さんの将来に関して大きく貢献することになると考える。ぜひ、これらに関連した科目、授業も取り入れることを検討いただきたい。 ●国際化は避けて通れない課題で有り、天然資源のない日本に取っては、海外との良好な関係、盛んな貿易は不可欠である。従って、語学教育、海外の文化を尊重するような教育が重要であり、時間と優先度の問題はあがるが、今後も更に充実していただきたい。 ●2の場合、3にするための事項、不足事項を記載するとよい。 ●学生をんどのように導いていけるかが十分理解できます。社会に出ますと成功だけではありませんので、ノウハウの蓄積等も必要と感じます。 ●丁寧に評価されている。更に、教科・単元等で生徒にわかりやすいルーブリック表を作成して、ゴールが明確な評価を目指してほしい。 ●建学の理念にそった教育が行われています。 特に社会・業界のニーズを的確にとらえて、あるべき教育課程の編成や授業評価で、教育の質を担保しながら授業を施す講師と、授業を受講する学生の視点を大切にする姿勢は高評価できます。 また仕事を通して社会に貢献したい・アスリート対象の商品開発をしたい・震災の農地で生産されているお米をつかい、日本酒・ビールは作れないかとの意欲は素晴らしいと思います。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	各学科の各科目は、その内容、関連性から適正な位置づけを行うことができる。定期的に授業アンケートを実施することで”授業の質”を担保している。授業評価の視点は、受講する学生の視点と、授業を実践する講師の視点の2つを大切にしている。 年間2度の教育課程編成委員会を開催し、業界関係者からご助言、ご指導いただき教育内容に反映している。また、業界の方を招いての勉強会に加え、業界団体に加盟することで学会等への参加も行っている。 キャリア教育は、入学時からフロー教育を軸に段階的に実施している。1年次は導入教育(人間力醸成)からスタートし、卒年次はインターンシップや産学連携による卒業研究に移行している。	アンケート内容は下記の4項目に自由意見を加えた形式としている。 ①板書は読みやすい…1、とても読みやすい 2、読みやすい 3、普通 4、読みにくいことがあった 5、いつも読みにくい ②話は聞き取りやすい…1、とても聞き取りやすい 2、聞き取りやすい 3、普通 4、聞き取りにくいことがあった 5、いつも聞き取りにくい ③授業は理解できる(分かりやすい)…1、とてもわかりやすい 2、わかりやすい 3、普通 4、わかりにくいことがあった 5、いつもわかりにくい ④授業は興味がもてる(おもしろい)…1、とても興味がもてる 2、興味がもてる 3、普通 4、興味がもてないことがあった 5、いつも興味がもてない		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	2	成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。2010年の学則より教科課程に単位制・GPAを取り入れている。	授業履修時間も含めて、基準の遵守は徹底している。 卒業・進級判定会議を開催し学校長の承認を経ている。		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	2	資格取得のサポーは、授業に加え直前対策講座・特別対策講座を実施することでほぼ全ての資格に対して対策ができています。 取得資格については学生便覧に明記している。	通常授業の中に対策講座を入れている。 オンデマンド動画、Google Foamを用いた問題演習も活用している。		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	学科の育成目標を達成するために、講師がその分野のスペシャリストであることを採用条件のひとつとしている。 講師とは、定期的な講師会議や科目連絡会を通して、授業運営に対する情報の共有化、成功事例の共有、また、学校運営上の方向性、養成したい学生像を共有し、問題・情報の共有、解決につなげている。	産学連携企業のネットワークや各種業界団体、同窓会ネットワークをいかし、交流を図っている。また、その情報から卒業生講師や外部講師を採用している。		
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか					
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか					

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前：有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2023年5月17日実施】

2022年度自己点検自己評価(2022年4月1日～2023年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
4 教育成果	4-13 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	就職率に関しては開校以来90％以上を維持できている。 高めた目標である就職者率(就職希望者/卒業年次在籍者)と専門就職率も共に90％を超える数値で、高い水準を満たしている。 これらはキャリアセンターと学科が、年度当初の目標設定から学生の内定獲得まで、常に連携しながら活動をしている成果である。	キャリアセンター…就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。キャリアセンターの目的は ①入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう:入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ②在校生に対しての就職支援:在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、筆記試験対策の実施等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援:卒業後の同窓生には就職した後さらなるキャリアアップを考え、マネジメントやコーチング などの実務レベルのスキルアップや、再就職支援を実施している。	3.0	●開校以来の就職率の高さは、素晴らしいと評価する。それだけ、社会、企業が必要としている人材に育っているものと判断する。 ●その一環として、様々な資格を取得できるような体制を取っており、学生達も真剣に取り組んでいることが、就職率の高さに結びついているものと推察する。 ●左記にもある通り、今後卒業生が更に自分の力を高められるようなサポートは是非必要と思う。現代は、AIやDXの推進に各企業が力を入れており、その成否が企業の将来を決定するような状況になってきた。従って、卒業生達が、自分の専門性だけでなく、更に幅広い業務遂行ができるようになることは、大変重要なことであり、是非そのサポートをできるような体制を作って欲しい。 ●企業マッチングなど工夫している。 ●課外活動のマイナス点について記載がほしい。 ●学校側の対応がよく反映されていると感じます。学生のうちに資格をとると社会に出て自信につながりますのでいいと思います。 ●進路指導は、的確に学生の満足度が達成されるよう体制を整備されている。今後も生徒のニーズに応えられるよう体制を整備してほしい。 ●就職や資格の取得が教育成果と評価されるといいますが、今回は別な角度から評価したいと思います。 卒業する学生が卒業記念で研究発表をする場がありました。素人の学生が研究発表ならば、高校生の文化祭と比べても大差はなかろうと会場に入り驚きました。まずは学生諸君の真剣さと笑顔の説明。さらに驚いたのは研究分野で日本の最先端にある企業や大学との連携で、高度な研究が行われていたことです。 この研究に携わった学生・職員の方の探究心は更に向上するものと確信しました。
	4-14 資格取得率の向上が図られているか	2	各学科で資格取得の目標を達成するために、対策を立て、実行している。 一部資格では、学内で講座を実施し、受験が可能なものもある。 それらも含め、すべてに100％を目指し、対策講座の実施等を行っている。	「実験動物1級技術者認定試験」(専門学校初)、「細胞培養士コースⅠ」は、専門的な技術を取得できる資格として、学生のモチベーションを高める資格の一つとなっている。 また、新たな資格として、「フードアナリスト4級」「品質検定4級」の導入をした。また、在学中に化学分析技能士2級を取得できるようになった。		
	4-15 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	卒業生の社会での活躍は年々大きくなってきている。 大きなプロジェクトの参画から、学会での各章受賞など、学生時代に習得した知識・技術を活かし成果を挙げている。卒業生の活躍は求人票の多さにも現れている。 在校生は、実習活動や卒業研究を通して社会で活躍している。 今後は卒業生の活動を確実に学校として把握することと、在校生の活躍の場を広げていく取り組みが必要と考える。	定期的に同窓会を実施すること、卒業後も卒業生とのつながりの場を創設することで情報収集している。今後は、収集した情報をもとに、卒業生が更に活躍につながるサポート(情報発信)をしていきたい。		
5 学生支援	5-16 就職に関する体制は整備されているか	3	ここ10年ほど、就職希望者内定者100％他の実績で表されているように、就職指導体制は高いレベルであると思われる。特に、バイオ系の分野は一般の求人にも乗りにくい世界であるために、求人を確保できる仕組み、合格できる仕組みが機能していると思われる。	11月 就職スタート式(決起大会・業界模擬面接会) 2月・3月 学内説明会以降は個別活動	3.0	●当学の就職率の高さからも、就職指導体制はしっかりしていることが伺える。それぞれの学生の強みや嗜好にあった企業に就職できることが一番幸せなので、学生一人一人にあった指導ができていると推察する。 ●そのために、アンケートを実施し、それぞれの学生が抱えている問題や希望をきちんと把握し、指導・意識付けができているものと思われる。学生相談室が設置されていることは、学生達にも分かりやすく、有り難い存在となっているはずである。 ●学生の経済的困窮の問題は、解決が難しいものと想像する。これは、単に奨学金を与えれば良いと言うだけで無く、保護者にもしっかりと理解してもらう必要があるので、保護者会等は重要な活動である。 ●良くは分からないが、留学生の経済的な援助は大変重要で有り、それがしっかりとっていると、優秀な留学生を集めることができると思う。学校の国際化を進めるためにも、さらに充実していただきたい対応策である。 ●学生さんへの手厚いサービスが十分感じ取れます。学生さんの数も多く、サポートにも時間がかかりますので体制の強化が必要となります。学校側の負担も大きくなると思います。 ●10年間就職100％は素晴らしいです。教員及び職員の皆さんの努力ですね。今後も心身とも健康で職場スキルおよびコミュニケーション能力を身に付けた学生の教育を期待します。中小企業は、即戦力の人材を求めることが多いです。中途採用も多いので離職した卒業生の管理も大事だと思います。 ●学生は多様化しており、よりきめ細やかな対応が必要となっている。専門職カウンセラーを常勤させる必要があるのでは。 ●学生の健康管理や内面のカウンセリングは、慶生会クリニック・滋慶トータルサポートセンターで学生のケアが施されています。 退学者の低減も図られ退学者率も4％台から2％台に改善がみられます。また滋慶グループへの転学により、自己の再生が可能となる学生にとっても支援は充分だと評価します。これは普段からの学生に対する相談体制の整備の成果です。 願わくは時間・場所の問題がありますが、人間関係つくりや憩いの機会としてクラブ活動の場が整備されることを望みます。
	5-17 退学率の低減が図られているか	3	学生の状況を学生アンケート(CSA)や日常のアプローチを通して、早期の問題発見を行い、全員で情報共有し、対策を立て対応している。学生の抱える固有の問題(精神疾患や発達に関する事案)にも個別に対応し、退学者を抑える取り組みをしている。	年々、学力差、志望動機、留学生等、入学者が多様化している。常に、現状分析をしながら改善策を考え実行している。		
	5-18-1 学生相談に関する体制は整備されているか	3	学生相談室を設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制は既に整備されているがそこで十分にはなっていない。	教職員全員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう研修会＆カウンセリング資格制度を実施しているが、多様な学生に十分対応できているとは言えない。今まで以上に各メンバーの対応力を上げる必要がある。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	2	学生の経済的側面の支援は、学生サービスセンターを中心に入学前から事前に学費相談を受けられ、資金のやり繰りするためのアドバイスできている。相談する保護者も多く、相談内容が難しくなっているので、その対応をする担当者もスキルアップが必要と考える。「慶生会クリニック」や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。	公的奨学金の他に学園独自の奨学金を用意している。経済的理由による退学や休学になることを、極力防ぎたいという学園の考えから、状況に応じて学費の分納・延納に下関する相談にも応じている。 災害に際しても公的な奨学金への案内はもちろん、学校独自のものも随時設定している。奨学金(分納)希望の学生、保護者に対して、奨学金の返還を含めて、一人ひとりと面談を実施し、保護者からの理解も得る事ができるよう働きかける共に、各説明会の際には、返還の重要性も伝えている。		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか					
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか					
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は整備されているか					
	5-20 保護者との連携体制を構築しているか	3	専門学校の大きな特色のひとつに担任制があるが、欠席等に対して担任は保護者と連携をして、学修継続への体制を築いている。	7月に1年次の保護者会を開催し、保護者との連携が必要であることを告知。更に、希望者には保護者面談期間を設けて個別に対応することで、学校と保護者の両面から学生一人ひとりを支援していく事を伝えている。		
5-21-1 卒業生への支援体制はあるか		卒後の就職や転職の支援は整備されている。また、教育支援プログラムは年々多くしているが、まだまだ十分とはいえない。 また、同窓会組織を使ったネットワーク作りは、今後その業界に卒業生を送りたい学校は、アテを必要としません				

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前 :有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2023年5月17日実施】

2022年度自己点検自己評価(2022年4月1日～2023年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育 プログラムの開発・実施に取組 んでいるか	2	ワズモ学校として大変重要だと考える。 同窓会を組織し、その繋がりですぐ求人頂き、実習を受け入れてもらうなど多くの成果が表れてきている。 また近年、業界で実際に働いている卒業生をアシスタントとしても採用し、在校生にとっては何年後かの自分をダブらせ大きな目標にもなっている。	キャリアセンターを中心に定期的に卒業生の状況を把握している。		
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育 環境を整備しているか					

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前：有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2023年5月17日実施】

2022年度自己点検自己評価(2022年4月1日～2023年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
6 教育環境	6-22 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	2	実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備はかなり高いレベルで整備されていると考えている。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上につなげる。授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。	3.0	●新型コロナの蔓延で、この3年あまり、インターンシップや海外研修が殆ど実施できてなかったと思う。日本として、国際化の進展は更に必要になっており、学生にとっても自分の能力を伸ばすチャンスである。ぜひ、今後学校としても力を入れて欲しい。
	6-23 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	インターンシップに関しては、90%の学生がそのプログラムを実施した。10%の学生は学内で、企業と連携した遺伝子解析を行った。海外研修に関しては、コロナウィルスの関係もあり海外は延期となったが、代替プログラムとして3か国の各機関とオンラインにて中継をつないだ「国内国際性教育プログラム」を実施した。		●インターンシップは学生にとっては就職した時の心構えを作るのにはいいと思います。これからは国内だけでなく海外でも就職もあり得ますのでいいプログラムと考えます。
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	現状、災害時の最低限の準備と学生への動機付け、そして救急時における知識の取得と意識付けは十分に出来ていると考えている。	・防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高めている。 ・AEDの設置 校舎入り口にシールを貼り、設置を知らせているので近隣の方々にも緊急の際使用できるようにしている。 ・警備システムの変更や各校舎に防犯カメラを設置し、テロ等に利用されることのない様、配慮も加えた。		●学外研修・インターンシップ・海外研修は大事にしてほしい。
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか					
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	毎年入学案内と募集要項は最新の情報に作成しなおし受験検討者に送付している。学生募集活動は、学則を基に行われている。	■出張授業実績(2022年度) ・埼玉県立新座総合技術高校(食物調理科) ・埼玉県立新座高校 ・栃木県立真岡北陵高校 ・わせがく高校	3.0	●子供の出生数・出生率が毎年低下している中、学生を如何に集めるかは、今後の学校経営に不可欠の取組みである。実際に、入学する学生が少ないために、近い将来、閉鎖予定の大学も出てきている。 ●従って、貴学で実施している出張授業の取組みは、大変有意義で有ると考える。 ●学生の確保は厳しいところ、かなり努力されていることが見受けられます。出張授業などは効果があると思います。 ●少子化の中で、いかにやる気のある学生に入学してもらうか、SNSによる広報を積極的に考えても良いのでは。 ●埼玉・栃木・千葉の高校で出前授業の試みや、見学会に集まった高校に対して丁寧な学校説明や映像の提供で学生募集も積極的に行われています。 また入学選考も公平な基準で行われています。 ただこれからますます18歳人口の減少、大学や他の専門学校との競争は激しくなりますから気をひきました募集に期待します。
	7-25-2 学生募集活動は、適正に行われているか					
	7-26-1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。選考日ごとに選考会議を実施し公平に評価している。 面接で得た情報で授業改善につながりそうなことは教務部とも情報共有し活用している。	■面接で確認する事項 ・志望理由 ・将来就きたい職業・職場 ・高校生活(努力したこと・好きな科目・出席状況等) 等		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	学納金は適正かつ妥当なものと考えている。 また、HP上には財務の情報公開も行っている。 入学辞退後の返金については、募集要項にも記載している通り、入学金と諸費用を除く金額で返金している。	※詳細はHP		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか					
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	事業計画の5か年計画に基づき、中長期的に収支計画を作成し、右記のような中間チェックを、修正を行いながら財務基盤を安定させている。	■事業計画(財務計画・収支予算書)の中間チェック 1. 学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 2. 四半期ごとの学園本部によるチェック 3. 修正予算の作成:学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 4. 計算書類の作成と学園本部によるチェック 5. 監事および公認会計士による監査 6. 決算書類、事業報告書の理事会・評議員会による承認 ※内部監査を設置し、第三者視点で厳しくみている。		●事業計画の着実な実行、及びフォローが毎年しっかりと実行されており、それによって、長期的にもしっかりと財務基盤が構築されていると考える。 ●但し、若年層の減少により、今後新規入学生の確保が次第に厳しくなってくることが予想されるので、それに備えた対応が必要になると想像する。 ●そのためにも、専門学校として、魅力有る設備や施策が重要で有り、そのための前向きな財務計画が更に重要になると考える。 ●十分な計画のもとに行われていることがわかりました。 ●適正に処理されており、頼もしい。 ●学校の財務状況・学校法人の財務状況は学校法人滋慶学園グループ全体でしっかり管理されています。全国80数校と全体の学生数38000名の財務体制は、他の専門学校や大学・短大を抱える法人からみれば盤石の態勢で何の問題もありません。 ただ職員の働きかた改革で時間の管理・健康管理は今まで以上の注意が求められますのでしっかりと舵取りをお願いします。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	在校生の推移見込みも5か年計画で作成している。その際、入学目標と退学目標も掲げ、在校生が減少しないよう(授業料収入が減少しないように)計画している。	当初予算→四半期予算実績対比→修正予算→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	監査は適切に実施している。	※詳細はHP		
	8-31 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	HP上に情報公開している。	4年制学科は職業実践専門課程に認定されており、その規定にのっとり、学校の内容をHP上に公開している。		

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前 :有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2023年5月17日実施】

2022年度自己点検自己評価(2022年4月1日～2023年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
9 法令等の遵守	9-32 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	学園本部の総務センターと各校が連携し、法令や設置基準の遵守に対応している。 また、実務担当者には、法令や設置基準を遵守に対する教育または研修を実施している。	行政への報告や提出書類は、本部の総務センターのチェックを受けている。 また、学園内部の監査も定期的に受けており、適正な学校運営を目指している。	3.0	●形だけで無く、実のある自己点検、自己評価を実施しており、学校全体で、前向きに取り組まれていることは、大いに評価できる。 ●十分に行っていると思います。 ●更に個人情報保護を大切にする体制を整備してほしい。 ●個人情報や学校が管理する情報の保護が図られ、さらに学校評価委員会の評価・教育課程編成委員会の提言も随時ホームページで公表し、財務や学校行事・教育内容も随時ホームページで閲覧できる透明性を持っていることは高い評価の材料です。 また学校運営にあたり、専修学校設置基準やその他の法令の順守が図られており適正な学校運営が行われています。
	9-33 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	学園として「個人情報保護基本規程」を定めており、すべての役員・教職員・講師が個人情報に関する法規範を遵守する体制を構築している。 また、学校は大量の個人情報を扱っているため、その管理においては外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての研修を受けている。	参考資料 ■学校法人東京滋慶学園 個人情報保護基本規定 ■物理的安全管理措置及び情報システムからの漏えい等の防止のための技術的安全監視措置について		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	私立専門学校等評価研究機構の基準に準じて自己点検・自己評価を実施しており、結果をホームページ上で公表している。	毎年5月に定められた委員会により、学校全体で取り組んでいる。 参照：自己点検自己評価委員会構成メンバー 学校長 事務局長 教務部長 学生サービスセンター長 キャリアセンター長		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか					
	9-35 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	教育情報はホームページを中心に公開している。	※詳細はHP		
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2	地域に向けた公開講座などは(コロナ禍もあり)出来ていないが、今後は実施していきたいと考えている。	特になし	2.2	●地域貢献という視点での取組みは、自分が生活している場に近く、学生さん達も参加しやすいと考える。その経験の中で、将来、自分がどのような仕事、業務に当たっていきたいかを考える良い機会になると思う。 ●また、ボランティア活動は、自分では無く、困っている他者のために何ができるかという視点で、対応策を自ら考えることもでき、大変良い機会である。是非、学校としてもいろいろな機会を提供できるよう、善処いただきたい。 ●コロナ禍の中では厳しいところがあります。今後に期待します。 ●地域交流は、どんどんすべきだと思います。学生のコミュニケーション能力を高めますし、有事の際に地域への協力もしやすくなると思います。 ●我が校を愛して、地域を愛して、様々な体験ができるよう支援をお願いします。 ●今回はコロナ感染の影響から、社会貢献は限りがあったと推察します。 今年度の貢献に大いに期待します。
	10-37 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	学生の積極的なボランティア活動への参加はないが、参加希望が出た際は支援していきたいと考えている。	※コロナ前は近隣の小学校の生徒に向けた「理科実験教室」を本校教職員と学生が実施していた。今後は再開を目指したいと考えている。		

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前 :有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2023年5月17日実施】

2022年度自己点検自己評価(2022年4月1日～2023年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 1 国際交流	11-38 国際交流に取り組んでいるか	2	コロナ前は海外研修の実施など、建学の理念のひとつでもある国際教育に積極的に取り組んでいた。コロナ禍では海外とオンラインで繋いでプログラムを実施したが充分ではなかったと考える。	2022年3月30日(水) TKP品川カンファレンスセンターにて実施 9:00～11:30 アメリカ サンフランシスコシティカレッジ 11:30～13:30 オーストラリア AJWCEF(オーストラリア日本野生動物保護教育財団) 14:30～17:00 スウェーデン スウェディッシュヘルスケア	2.3	●新型コロナの蔓延で、海外関連の様々な取組みをストップせざるを得ない状況下、十分な取組みができなかったのは致し方無いと考える。但し、オンラインシステムを活用した取組みは、人の移動が無くても対応できるので、もう少し、積極的な取組みができたのでは無いと思われる。この点を鑑み、コロナが落ち着いた後でも、オンラインの更なる活用を検討して欲しい。 ●対面で行うのが良好ですが、オンラインで行うだけでも効果があったと思います。 ●2023年は海外研修は実施されるのでしょうか？コロナ禍で実施されたオンラインでの研修は、現地研修と比較して成果が同等以上であれば、オンラインのままでも良いと考えます。 ●世界に目を向ける学生の育成を望みます。 ●国際交流もコロナ感染拡大の影響が大きかったと思います。 コロナ感染も不安が無くなりつつありますので、今年から更なる高みを目指した交流を期待します。